

第4学年 総合学習指導案

富田林市伏山台小学校  
指導者 栗木 陸行

- 1.日 時 令和2年12月8日(水)第5時限(13:30~14:15)
- 2.場 所 第4学年1組教室
- 3.学年・組 第4学年1組 33名
- 4.教材名 「防災マップをつくろう」

5.単元目標

- 地域の避難場所や防災設備について調べ、防災意識の向上につなげる。
- 災害から命を守る工夫について知り、安全な行動の仕方ができるようにする。
- 地震の簡単なメカニズムを知るとともに、地域の地理的特徴を理解する。

6.当単元において発揮する伏山 STEPS

T: ツール	B1: 情報収集の方法
	B2: 必要な情報の整理
	B3: 複数の情報の比較分析
E: エクスプローラ	B4: 情報の発信
	B5: 情報を組み合わせて新たな考えの創造
	B6: 発信内容の構成
	B7: 表現手段の選択・特性に合った発信方法の工夫
	B8: 受け手を意識した発信方法
	B9: 自分の情報活用の評価・改善
S: セキュリティ	A15: 発信者としての責任
STEPS	C1: 試行錯誤し計画や改善しようとする態度
	C2: 多角的に情報を検討しようとする態度
	C3: 責任を持って適切に情報を扱おうとする態度

7.単元の評価規準

- 【主・学・態】自分たちの住む地域の特徴を捉え、安全な避難場所、避難経路を考えようとしている。
- 【思・判・表】災害時に起こる被害を予想しながら、安全な避難方法を考えることができる。
- 【知・技】自分たちの住む地域の地理的特徴を理解することができる。  
社会科で学んだ知識や、地域の情報を防災マップにまとめることができる。

8. 指導計画 (全 10 時間)

1	富田林市の避難所は、どのような場所があるのか考える。また、指定避難場所には、なぜ伏山台小学校が指定されているかを考える。	B1
2	震災時の様子を画像、動画などで学び、地震発生時に起こる自分たちが住んでいる地域での被害を予想する。	B1, B2
3	地震が起きた時に、金剛駅前(寺池台方面)付近から伏山台小学校までの避難経路を個人で考える。	B2, 3, 4
4	地震が起きた時に、金剛駅前(寺池台方面)付近から伏山台小学校までの避難経路をグループ・全体で考える。	B2, 3, 4, 5
5	地震が起きた時に、滝谷駅前(伏山方面)付近から伏山台小学校までの避難経路を個人、グループで考える。	B2, 3, 4, 5
6 (本時)	地震が起きた時に、滝谷駅前(伏山方面)付近から伏山台小学校までの避難経路を全体で考える。	B2, 3, 4, 5
7	自分たちが住んでいる地域の危険箇所、避難場所を Google マップに打ち込み、防災マップを作成する。	B6, 7, 9 C1, 2
8・9	防災マップを使って、災害時の危険性、避難の方法を伝える方法を考える。	B8, 9 C3
10	防災マップを使って、災害時の危険性、避難の方法を伝える	B8, 9 A15

9, ICT の活用

ICT 活用の場面	<input checked="" type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input checked="" type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> 評価問題
ICT 活用者	<input checked="" type="checkbox"/> 指導者 <input checked="" type="checkbox"/> 児童 <input type="checkbox"/> その他 ( )
活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 資料(問題等)の掲示 <input checked="" type="checkbox"/> 自分で考える <input checked="" type="checkbox"/> 全体で交流する <input checked="" type="checkbox"/> 考えをまとめる <input checked="" type="checkbox"/> 学習のふりかえり <input type="checkbox"/> 評価問題を解く <input type="checkbox"/> 記録(写真・動画等) <input type="checkbox"/> プレゼンの作成
活用コンテンツ	・Google マップ ・Map (Look around)

10.ユニバーサルデザイン合理的配慮の授業作り(学校教育目標との関連性)

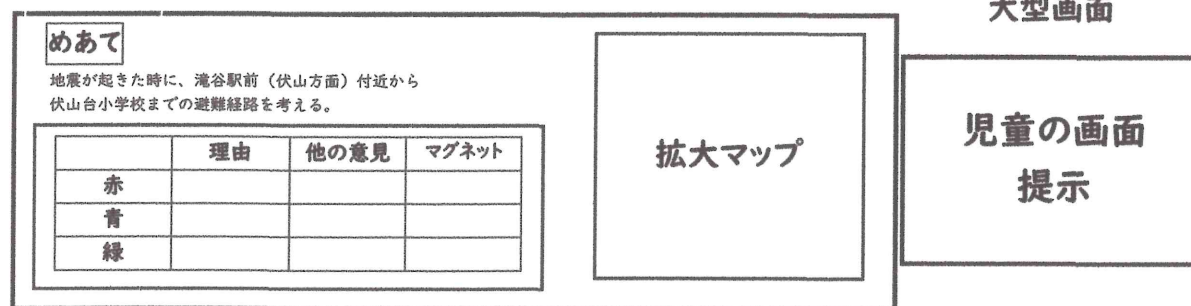
◆授業におけるナチュラルサポート(基礎的環境整備)

あ	教室環境を確認する。(机の並び方、落ちているもの、収納状況、掲示物等)
い	教科書、ノート等、必要なもののみを机の上に置いているか確認する。
う	授業のめあてを書き(貼る)、本時のポイントを明確に示す。
え	全員が静かになったことを確認してから話し始める習慣をつける。
お	板書を工夫する。(板書の量・書く位置、区切り線をつける、色の配慮等)
か	今は、「聞くとき」「書くとき」「話すとき」を区別し、同時に提示しない。
き	大切な指示や内容ポイント等の大事なところは、何度か繰り返し説明する。
く	視覚的に示すことができる教材・教具を多用する。
け	本時のポイントを復唱し、まとめ、振り返りを行う。
こ	授業の中で何度か、リスタートの場面をつくる。
さ	全体への説明や指示はできるだけシンプルにする。

11.板書計画・環境設定

黒板

大型画面



## ◆本時までの流れ

### 「避難防災マップを作ろう」

#### 第1時 「校区近辺の避難できる場所を考える」

◎自分の考える避難場所

→伏山公園、伏山台小学校、寺池台小学校、緑織公園  
ストリートビューを使いながら、発表を行いました。



◎なぜ、伏山台小学校は指定避難所なのか。  
→食料や水などがある・丈夫・みんなが知っている など

#### 第2時①

#### 「地震発生時の校区の被害を考える」

阪神淡路大震災が起きた時の動画を見て、  
災害時の様子を学習しました。  
その後、個人→班→全体で交流します。



#### 第2時②

#### 「地震発生時の校区の被害を考える」

◎班や全体で共有する時は、  
Look aroundを使いながら話し合います。

映像を使うことで、  
その地区に馴染みが少ない児童にも  
共有することができました。



#### 第3・4時

#### 「地震が起きたときの避難経路を考える」 (寺池方面)

◎金剛駅付近から、  
実際に避難する方法を考えます。  
前時までに考えた危険箇所をふまえて、  
避難ルートを考え、どのルートが  
一番適しているのか話し合いました。



#### 第3・4時

#### 「地震が起きたときの避難経路を考える」 (寺池方面)

◎どのような道を選べばよいのか  
→安全なルート、危険の少ないルート

◎安全な道とは？→道が広い、近い道、わかりやすい  
◎危険な道とは？→線路が近い道、橋を通る道、  
倒壊、火災の危険性がある建物が近い道

#### 第5時

#### 「地震が起きたときの避難経路を考える」 (伏山方面)

◎寺池方面での考えを踏まえて、  
個人でルートを考えます。  
班でまとめる時は、前回同様に、  
Look aroundで共有しながら  
交流します。



本時の目標

○地震が起きた時に、滝谷駅前（伏山方面）付近から伏山台小学校までの避難経路を考える。  
 本時の展開

- ①先生タブレット1台
- ②児童タブレット8台（各グループ1台）
- ③大型画面

・児童にとっての利点

・教師にとっての利点

学習活動・内容・留意点	ICT活用のポイント	ICT活用の意図	評価規準
1、めあてを確認する ・伏山方面の危険な場所や避難経路を考える時に意識したことを確認させる。 (火災、倒壊、道の広さ、距離)	・Look aroundの機能を使って、危険な場所の実際の様子を見せる。	視覚的に示すことで全体への説明をシンプルにすることができる	
伏山台方面で、災害(地震)が起きたときの避難経路を考えよう	・Look aroundの機能を使いながら、グループで避難経路を確認する。 ・Look aroundの機能を使いながら、クラスの人に避難経路を説明する。	個人で考えた避難経路の安全性や危険性を映像と共に説明することができる 複数の経路を映像で確認することで、比較検討するためのツールとして扱える。 説明している場所が想起しやすくなる。	ICT機器によるナチュラルサポート ・災害時に起きる被害を予想しながら、観点を意識して、避難経路を考えることができる。 ・自分たちが考えた避難経路を分かりやすく説明することができる。
2、伏山台小学校を目標地点として、安全に早く避難することができる避難経路をグループで確認する。	・児童の意見が出てきた場所をLook aroundで確認する。	視覚的に示すことで意見を深めることができる。	・より安全な避難経路について考えを深めることができる。
3、グループで考えた避難経路を理由と共に発表する。(3グループ)			
4、安全に避難できる経路について話し合う。 ・意見が出なかった時は教師が誘導して円滑に進むようにする。 ・タブレットを使って自分の意見を示す。 ・避難経路を考える時に、大切だと思う考えをまとめる。 ・避難経路の安全性、危険性を考えさせる。			
5、ふりかえり			・避難経路を選択する時に、観点に沿って理由を書くことができる。